

# Glocal Tenri



11

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.17 No.11 November 2016

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

## CONTENTS

- ・ 巻頭言  
平和の祈りとしての献血活動  
／高見宇造..... 1
- ・ 天理教教理史断章 (110)  
勢山文書①「おさしづ」の写し翻刻  
／安井幹夫..... 2
- ・ 『教祖伝』探究 (29)  
応法  
／深谷忠一..... 3
- ・ 「おふでさき」天理言語教学試論～「こと」  
的世界観への未来像～ (31)  
第4章 南方熊楠「萃点の思想」と「事  
の学」⑥  
／井上昭夫..... 4
- ・ 「元初まりの話」に登場する動物たち (17)  
「皮つなぎの道具」としての「かめ」③  
／佐藤孝則..... 5
- ・ 「おふでさき」の標石的用法 (15)  
「そうじ」について⑥  
／深谷耕治..... 6
- ・ 新宗教のブラジル伝道 (43)  
救済の多様性 PL 教団②  
／山田政信..... 7
- ・ 伝道と翻訳 一受容と変容の“はざま”で—(1)  
はじめに  
／成田道広..... 8
- ・ 地域福祉を拓く 一新たな寄付文化の創造  
— (23)  
コミュニティオーガニゼーションの「合同財  
政」②  
／渡辺一城..... 9
- ・ 遺跡からのメッセージ (17)  
イスラエルの遺跡調査③ テル・レヘシュ  
の初期シナゴグ跡とその時代  
／桑原久男..... 10
- ・ 現代宗教と女性 (11)  
「社会参画する宗教」と寺族の「活躍」  
／金子珠理..... 11
- ・ 天理参考館から (8)  
第78回企画展「東北地方の玩具たち—東  
日本大震災を忘れない—」より“こけし”  
／幡鎌真理..... 12
- ・ 平成28年度公開教学講座要旨：現代の事  
情に対する天理教の思案 (1)  
超高齢社会 一信仰とその取り組み—  
／高見宇造..... 13
- ・ English Summary..... 14
- ・ おやさと研究所ニュース..... 15  
教団付置研究所懇話会第15回年次大会  
に出席 (金子昭)／新連載執筆のねらい  
／連載執筆者の紹介／『グローカル天理』  
合本のご案内／平成28年度「公開教学  
講座」のご案内

## 巻頭言

### 平和の祈りとしての献血活動

おやさと研究所長 高見宇造 Uzo Takami

9月29日、佐賀県の中山身語正宗で教団付置研究所懇話会第15回大会が開催され出席しました。大会テーマは「日々の信仰生活の中の平和—戦後70年から未来へ」というものです。曹洞宗からは梅花流詠賛歌の普及に取り組んでいるお話、また真如苑からはハワイで先祖崇拜の灯籠流しを行っているお話がありました。日々の生活の中で教えに沿い、いかに「平和」を考え伝えていくのか。どの教団も独自の取り組みがあると考えさせられました。

私自身は戦争を知らない世代ですが、たとえば「平和運動」という言葉からは「70年安保」がまず思い浮かびます。1970(昭和45)年、日米安保条約の自動延長を阻止し破棄させようと、特に学生運動が盛んになり、その一部は平和運動の名のもと、過激な破壊行動へと転化しました。この頃はベトナム反戦、沖縄問題もありました。

そうした不安定な社会情勢もあつたのでしょう、青年会本部では同年5月31日に全支部において「平和祈願支部青年集会」を行う旨を発表しました。『青年会報』(青年会本部発行・昭和45年4月)には「地上いたる所に争いのない今日、世界たすけの使命を担う私たち天理青年は何をすべきか、今こそたすけ一条の決意を新たにする時である。その決意を親神に捧げて、この日私たちは、心一つに、てをどりまなびをつとめさせていただこう。陽気ぐらし世界を目指して一日も早く対立抗争のない姿をお見せいただけるよう親神に希求しよう」とあります。当日は、おつとめを勤めるとともに平和へのアピールを行い、同時に具体的なひのきしんの実践、平和への取り組みとして特に献血活動を推奨しました。平和運動は本来、「平和」を求める運動であるはず

ですが、一つの主義や思想を訴える方法や手段として利用される時、逆に対立や紛争を生み出してしまいます。恐らく青年会本部はどのように青年層を信仰者として善導していくのか議論を重ねられたことと思います。

当時の先輩は「献血は主義とか、宗教とか、人種とかには関係なく、しかも無償で、人のために役立つもの。人をたすけられるものだ」という考えを聞いたとき、これは大事なことだと思いました。人のために、お借りしている身体を使っておたすけに使えと、その事に対して私は共鳴したんです」と語っています。そうした信仰信念のもと、社会騒乱の中、献血活動に取り組みました。これは大変意義深いことであり、青年会本部の見識は信仰者として高く評価されるべきだと私は思います。結果、この「平和祈願支部青年集会」が契機となり支部活動として定着をしていきます。

我が国の献血は、昭和39年に政府閣議で「輸血用血液は献血により確保する」との決議が採択されたことが始まりです。翌年には早速、奈良県の要請を受けた天理大学の学生有志が、世の中に先駆けて「献血は本教のれつぎょうだいの教えの実践である」として始めたことが嚆矢となっています。その後は様々な変遷がありますが、天理教のひのきしんとして全教を挙げて取り組むようになりました。こうした貢献が評価され、平成8年には第32回献血運動推進全国大会において宗教団体としては初となる「昭和天皇記念献血推進賞」を受賞、日本赤十字社の名誉副総裁である皇太子殿下から当時の真柱様に表彰状が授与されました。今年は丁度、20年を数えますが、本教の献血活動は日々の平和の祈り、取り組みが元一日であることを知っていただきたいと思います。